

キハ52125 H0 ゲージ制作記

20-3 K.K

今回は、現在でも千葉県の内陸部の「いすみ鉄道」で活躍する旧国鉄

キハ52型125号機

を1/80ゲージ(HOゲージ)で主に紙を利用して制作しました。

実車について

キハ52型は国鉄無煙化計画の下、1957(昭和32)年に既存のキハ20型気動車にエンジンを2基搭載し、山岳地帯での利用を目的として製造されました。日本全国の勾配の多い路線で活躍しましたが、老朽化のため2010(平成22)年にJR西日本の大糸線を最後にJR線上から引退しました。

大糸線は長野県の松本駅から新潟県の糸魚川駅までを結ぶ路線で、キハ52型が3両配置されていました。



現在でもいすみ鉄道で
キハ28型と共に活躍
している。

キハ28型は老朽化の
ため引退が決まっている。

今回はその3両の中でも青と濃い黄色の「鉄道省塗装」が施されていた
125号機を制作しました。(写真の車両は国鉄標準色に変更されています。)



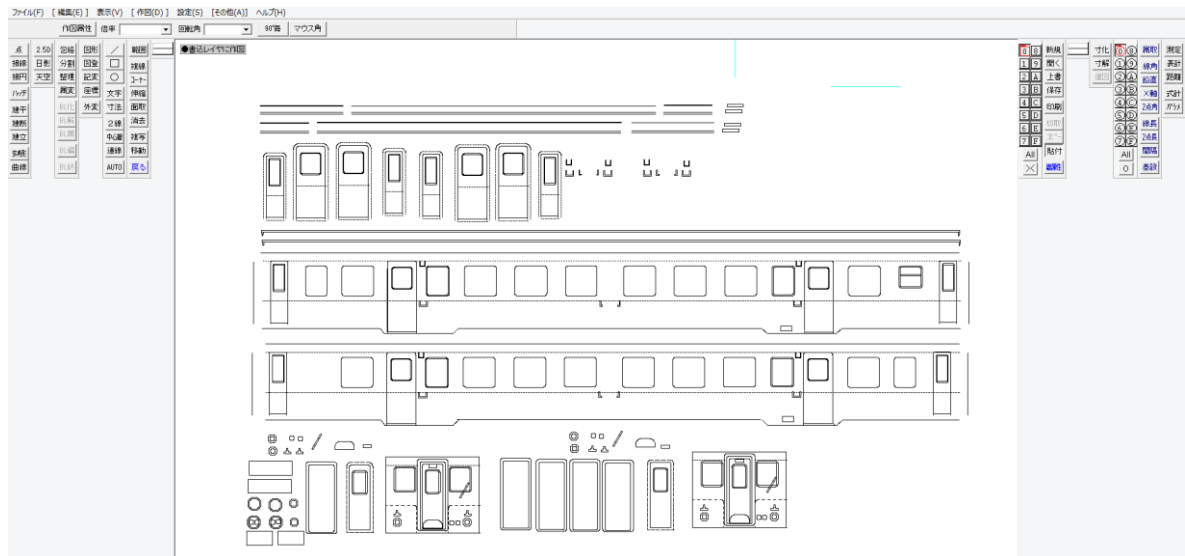
制作について

今回は既製品を極力使わず、すべて自作しました。材料はケント紙と木を使用しました。

制作工程

制作順に説明していきます。

1、jwvcad というソフトで図面を引いていきます。



2、この図面をケント紙という厚紙に印刷し、カッターナイフまたはデザインナイフで切り出します。号車札入れやライトの縁など細かい部品もここで接着しておきます。

3、屋根板は木材を彫刻刀で削り、紙やすりで表面を整えました。使うやすりは粗いものから段々細いものにしていきます。



4、車体と屋根を貼り合わせます。このとき、側面が屋根板に垂直になるようにしっかりと固定します。



5、塗装に入る前に下地を塗ります。

使用するのはクレオスのMr.サーフェイサーです。

ちなみにこの時、既に手摺りや雨どい、タイフォン(ヘッドライト横の警笛が鳴る穴)やベンチレーター(屋根上の四角い箱。換気設備がある。)など細かい部品をすべて接着しておきました。手摺りはエナメル線を使い、その他は全てケント紙で自作しています。当時、初めてのHOゲージ制作だったためベンチレーターはKATO製品を100円ショップの「おゆまる」と「エポキシパテ」で複製しましたが、この部品はケント紙で自作の方がリアルに表現できることがわかりました。また記事の最後に説明いたします。



↑この塗料を使用しました。

6、いよいよ本塗装です。

使用した塗料は Mr. color の青と Mr. color のミドルストーンです。

また、車体の塗装がすべて終わったらその上から透明の光沢のある塗料を塗りました。金属部の表面保護や車体にツヤを出す目的で塗りました。



(※青塗料のみ残っていなかったため写真はありません)

特に苦労したことは右から2番目の「ミドルストーン」の塗料についてです。

実車とピッタリの色の塗料が存在せず、どの塗料が最も実車に似ているのかを調べるのに苦労しました。

結果、多少暗めの塗装になってしまいましたが全く似ていないわけではないので良かったのではないかと思います。

①



②



①まず青を塗りました。どちらから塗ってもよかったのですが、前面のマスキング②がしやすくなるように青から塗りました。

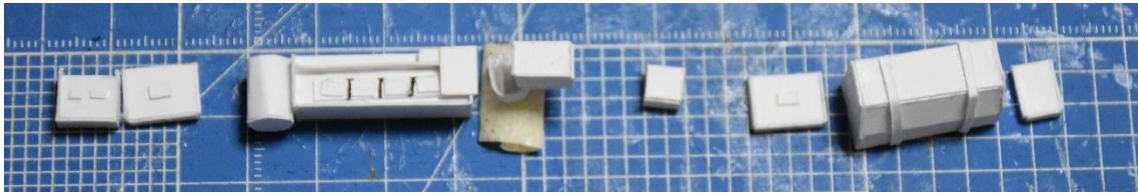
ここから2色目を塗装していきます。どのような仕上がりになるでしょう・・・次のページをご覧ください。



このようになりました。ここで先ほどのマスキングが上手くいっていないと、塗料が吹き込んでしまったり、2色の境目がはっきりしなくなってしまう。形がよくても塗装が残念な出来では印象が変わってしまいますので、とても重要な作業でした。また、これが模型制作の中でも非常に重要な作業であり、最も楽しい工程です。写真はありますが、この後屋根はGMカラーの灰色35号、冷房は100円ショップのラッカースプレーのグレーで塗装しました。もう気づかれたかもしれませんが、ヘッドライトに筆で銀塗料を、ホロ(車両前面の黒いパーツ)が取り付けられています。ホロは四角く切ったケント紙を4枚重ね合わせ、蛇腹風に表現しました。しかし、まだ完成ではありません。

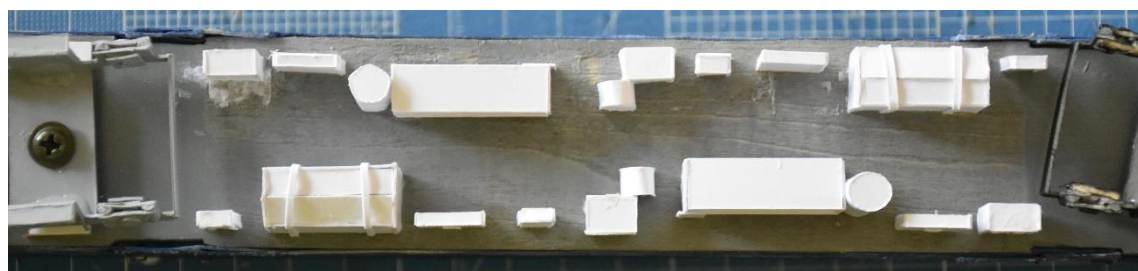


7、次は床下機器を作りました。



この部品は車両の床下についているエンジンなどの機械です。

実車の写真やビデオを何度も見ながら全てケント紙で制作していきました。

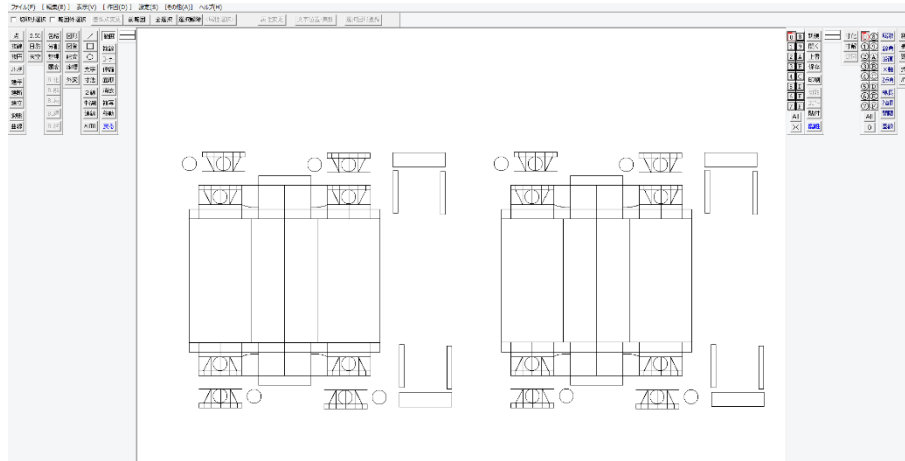


取りつけるとこのような感じになりました。なかなかリアルにできたのではないのでしょうか。気動車ならではのエンジンもそれらしく見えるよう、紙で立体感を出しました。

8、台車制作

車体と同じ jwwcad で設計しました。

制作にはケント紙ではなく、ケント紙よりも厚いパール紙を使用しました。



車輪もパール紙を丸く切り、重ね合わせました。
車軸と表面のバネの再現には爪楊枝を使用しました。



最後にプラ板で窓ガラスをいれ、窓の縁に黒い塗料でゴムを再現し、別パーツで用意したアルミサッシを取りつけば完成です。

完成

作り始めたら終わりが無いのでここで一度完成としました。
今後、機会があれば車内なども作りこんでみようと思います。



細部について

1、先ほどのベンチレーターなどの屋根上の部品について検証します。

①今回のキハ52で採用したパテで複製したもの、②約1年後に製作したクモヤ145型の全てケント紙で制作したベンチレーターの比較です。

①



②

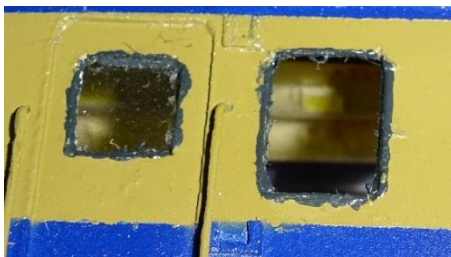


①よりも②の方が精密にできました。原因は型取りの際に使用した型「おゆまる」が細かいところの型取りには特化していないためであると思われます。

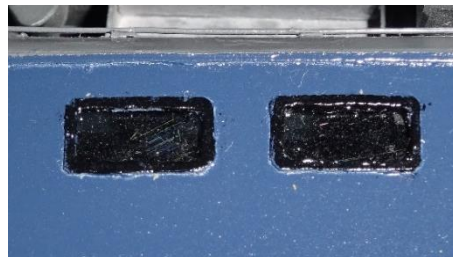
一方、②はケント紙で作っているためぼんやりとした感じにはなりにくいいためでもあると思います。

2、ドア窓などのHゴムの表現について

①



②



①のキハ52は黒塗料で筆塗りしましたが、②のクモヤ145は普通紙を切り出し、上から貼りつけました。



少し出っ張っている表現になりますが、塗装もきれいで実車も少し膨らんでいるためこちらの技法の方が良いでしょう。

重要な2つを御紹介しましたが、他にも気になるところがあります。

また新たな技法を身につけ、より良いHO車両が作ることができるよう努力してまいります。

最後までお読みいただきありがとうございました